



「この子が死んだら、てばなそう」。
 そんな言葉が出るほどおそろしい体験でした。
 諫早大水害を生きぬいたお二人に、当時のお話を聞きました。

古賀 文朗さん (86)

水害発生時、町に水が勢よく流れてきて、家の中でおぼれて命を落とす人が多かったんです。わたしは家の二階に逃げたので助かりました。警察官や自衛隊はすぐに動いてくれて、瓦礫や道路の片付けもあっという間にしてくれました。
 災害が起きたときは、自分の命を守る行動をいちばんにとってほしいと思います。



諫早市自治会 会長
 【被災当時】 高校3年生
 【被災場所】 諫早市栄町

登 繁信さん (69)

1歳の時に水害にいました。母は、わたしと4歳の兄をシーツでぐるぐると自分の体に巻きつけて、避難したそうです。その途中でわたしはおぼれかけ、泥水をたくさん飲んでしまいました。母は、「この子が死んだら、てばなそう」と心の中で決めていたそうです。それでも母はあきらめず、わたしを守ってくれました。



元諫早市職員
 【被災当時】 1歳
 【被災場所】 諫早市長田町



【Q】大雨で川があふれ、町に土や瓦礫が広がってしまいました。最初に行う大切なことは次のうちどれ？

- ① あぶない場所を確認しながら、土や瓦礫を安全に取りのぞく
- ② どこが壊れたのかを調べて、詳しい計画を立ててから片付ける
- ③ デミー博士が「まかせろ！」と言って、スコップ1本で全部片付けちゃう

▶ 答えと詳しい解説は、ホームページをチェック！



【Q】防災に詳しくなりたいです！どうすればいいですか？ (小2・りなび)

きみも防災士をめざそう！



諫早市 最年少 防災士
 後藤 晴風さん (14)
 長崎県立諫早高等学校 附属中学校 2年生

【A】防災に詳しくなるには、天気予報やニュースを気にして見ることです。
 大雨が降ったときや津波が発生したとき、どこへ逃げればいいのか家族で話しあったり、市町村が出しているハザードマップを確認してみましょう。
 いちど、避難場所を見に行くのもあり！
 また防災のプロになれる防災士という資格もあります。すこしでも気になったら、ぜひ家族の人と一緒に調べてみてください。



《読者隊員の広場》これからも防災の話をたくさん聞かせてほしい。(中1・西口 心花) / 防災について学んでみたいと思った。(中2・城戸 結愛) / たくさん人が亡くなっていてびっくりした。(中1・たちつと) / 諫早災害の写真を見て悲しくなった。(小1・あおばちゃん) / 諫早大水害を思い出せてよかった。(小5・のんたん) / 諫早のことをしれてうれしかった。(小1・さゆびー) / 橋は災害の原因にもなるけれど、守ることもできると思った。(小6・内田 理仁)

感想・質問 大募集！

みんなの声を大募集！

アンケート回答者の中から合計3名様に図書カード (1000円) とオリジナルトートバッグをプレゼント！みなさんからのご応募をお待ちしております！



メールフォームはこちら！

次回のミッション

次回ミッションは「諫早大水害からの復興」
 復旧からどうやって町は復興していったのか、どぼイチと一緒にひみつを探索しよう！



サイトにアクセス！

●発行元: teamどぼイチ

●協力: 国土交通省本明川ダム工事事務所

●協賛: 大成建設 For a Lively World

高める、つくる、そして、支える。 熊谷組

株式会社 西海建設